



自らの命を守るために



11月11日(日)、千歳・本通・宮下行政区主催の合同防災訓練が占冠村コミュニティプラザで開催され、村民64名が参加しました。

訓練では、避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するHUG[H (hinanzyo避難所)、U (unei運営)、G (gameゲーム)]を実施し、参加者は災害時の避難生活について理解を深めました。

昨年は、国内で大阪府北部の地震、西日本を中心に大きな被害をもたらした『平成30年7月豪雨』、『平成30年北海道胆振東部地震』など、自然災害が多発した年でした。食料や生活用品を備えておくこと、心構えをしっかりとっておくことは非常に大切なことであり、その気持ちは薄れさせてはいけません。

村では、2月16日(土)～17日(日)にかけて防災訓練を予定しておりますので、ご参加のほどよろしく願いいたします。

とっても長い太巻き寿司をみんなで



11月28日(水)、占冠保育所とトマム保育所の交流を深める食事会が、占冠保育所で開催されました。

交流食事会には、両保育所の子どもとその保護者が参加。長い太巻き寿司作りを成功させるべく、子どもたちは、保護者のサポートをうけながら懸命に太巻き寿司作りに励みました。

太巻き寿司が完成すると、その長さはなんと約8メートル。会場からは「おおきーい！」と喜びの声があがり、自分たちで作ったとっても長い太巻き寿司を美味しそうに食べていました。

ふれあい餅つき会



12月6日(木)及び7日(金)、『占冠ふれあい餅つき会』が、占冠村コミュニティプラザ及びトマムコミュニティセンターで実施されました。

餅つき会には、お年寄りの方々や保育所の子どもたちが参加しました。

お年寄りの方々による餅のつき方はお手のもの。杵を使って餅をつくときは、力を入れすぎずに振り上げた杵の重さを利用して、落とすようにするのがポイントなのだとか。熟練した技を見せてくれました。

対して、重たい杵を何とか持ち上げ、頑張って餅をつく子どもたちの姿は大変ほほえましく、会場は和やかな雰囲気になりました。

地域の文化を引き継ぐために



「地域の大切な文化を学び、村や郷土の良さを守っていくために、子どもたち自らが村で何が出来るのかを考えてもらいたい。」として、占冠中央小学校では、児童に村の伝統芸能である『占冠神楽』に親しむ機会を設けています。11月29日(木)及び12月5日(水)、中央小学校の4年生が授業の中で占冠神楽を体験しました。

神楽を体験した子供たちは、「大蛇が重くて動くのが大変だった。短時間だけどすごく疲れた。」「どの役にも重要な役割があった。台詞を覚えるのが大変だった。」「主人公の視点で大蛇と戦うことができた。客席からは伝わらない怖さがあった。」などと話していました。

占冠神楽保存会の山西さんは、『今日の演技時間はかなり時間短縮したもの。本番はもっと長いし、もっと疲れるよ。』と話し、子どもたちは驚きを隠せない様子でした。

とま〜るで行うクリスマス会



12月10日(月)、小規模多機能型居宅介護施設の利用者がクリスマスの催し物を楽しむ『とま〜るクリスマス会』が、『とま〜る』にて開催されました。

クリスマス会には、介護施設の利用者のほか中央小学校児童も参加し、三角に切った牛乳パックを積み上げる速さを競うゲームや、ビンゴゲームなど様々なレクリエーションを通して交流を深めました。

手しごとカフェで飾りづくり



12月12日(水)、羊毛フェルトでクリスマスツリーを作製する『手しごとカフェ交流会』が、占冠村コミュニティプラザで開催されました。

柔らかな羊毛は、針で刺すことで形を整えることが出来ます。羊毛をクリスマスツリーの形に整えた後、カラフルな毛糸などで飾りつけをするという、初心者の方でも参加しやすい内容となっていました。

参加者は、それぞれの途中経過を見せあい、「その飾りいいね。」「色の使い方がかわいいね。」とお互いの出来栄を褒め合っていました。

完成した作品はまさに十人十色。個性あふれるクリスマスツリーがたくさん出来ました。

